

<p>交流ニュース 第72号 2010年12月</p>	 <p><b>フレスタ</b> Friendly Star</p>	<p>学園&amp;地域交流ネットワーク 八幡西区折尾4-10-1 <a href="http://friestar.com">http://friestar.com</a> <a href="mailto:info@friestar.com">info@friestar.com</a></p>
-------------------------------------	--	--

## = 「旧ゆめ広場」にて授産品バザー開催 =

架け橋交流事業・授産品バザーを11月20日(土)旧ゆめ広場にて開催しました。

この日の旧ゆめ広場売上が38,760円、「協力店」売上が7,020円、総売上額は45,780円でした。今回はパンの出品がなかったため来場者からは「次回はぜひ出してほしい」との声や「授産品バザーを楽しみにしているのに毎月はないのですか?」という声をいただきました。

前回のバザーに比べて、来場者が少なかったのは、8月末でゆめ広場を閉鎖したためと思われます。今回も品物に「値札シール」を貼ってきていただいている施設が多く大変助かりました。ご協力いただきました皆様方に厚くお礼申し上げます。

次回は来年1月15日(土)に「旧ゆめ広場」にて開催します。皆様のご来場をお待ちしています。

## = 「認知症サポーター」セミナー開催 =

架け橋交流事業の一環として11月29日(月)にレンタルスペース・ドルフィンに「老いを支える北九州家族の会」代表の高田芳信様を講師にお迎えして「認知症サポーター」セミナーを開催しました。

丸尾町にお住まいの高田さんは、ご自身の介護の話しを交えながら、認知症を正しく理解するために具体例を示しながらわかりやすくお話してくださいましたのでその一部を紹介したいと思います。

尊厳をもって最期まで自分らしくありたい。これは誰もが望むことですが、この願いをはばみ、深刻な問題になっているのが「認知症」です。認知症は、誰にも起こりうる脳の病気によるもので85歳以上では4人に1人にその症状があるといわれています。現在は169万人ですが、今後20年で倍増することが予想されているそうです。

認知症の人が記憶障害や認知障害から不安に陥り、その結果まわりの人との関係が損なわれることもしばしば見られ、家族が疲れきって共倒れしてしまうことも少なくありません。しかし、周囲の理解と気遣いがあれば穏やかに暮らしていくことは可能です。そのためには地域の支え合いが必要で、誰もが認知症についての正しい知識をもち、認知症の人や家族を支える手だてを知っていれば、「尊厳ある暮らし」をみんなで守ることができます。

最後に、高田さんは認知症を理解し、認知症の人や家族を見守る『認知症サポーター』を一人でも増やして「安心して暮らせる町づくりを進めていきたい」と熱く話されました。

高田さん、貴重なお話をありがとうございました。

### 認知症の人への対応の心得 “3つの「ない」”

1. 驚かせない
2. 急がせない
3. 自尊心を傷つけない